

令和5年度「日本語教室・日本語ボランティア研修」実施報告書

1. 研修会の概要

日時：7月2日（日）、7月9日（日）、7月30日（日） 10：00～16：00

会場：大分県消費生活・男女共同参画プラザ（アイネス）

主催：大分県企画振興部国際政策課

事業実施：（公財）大分県芸術文化スポーツ振興財団 おおいた国際交流プラザ

参集範囲：大分県内（特に大分・別府市内）で日本語教育に興味のある方

参加者数：112名（3日間合計）

2. 研修会の目的

令和5年度 大分県国際政策課委託事業「多文化共生推進事業委託業務（コミュニケーション支援）」のうち、「日本語教室・日本語ボランティア研修」の初級者対象の研修を実施する。

3. 講師

本田 明子 立命館アジア太平洋大学教授

4. 研修会のプログラム

（進行 おおいた国際交流プラザ 高橋 陽子）

時 間	スケジュール
10：00～10：10	開会挨拶 大分県国際政策課 課長 荻 貴伸
10：10～12：00	講義・演習
12：00～13：00	（昼食休憩）※昼食は各自で対応
13：00～15：50	講義・演習
15：50～16：00	閉会行事

※大分県国際政策課の開会挨拶は初日のみ

5. 研修会の内容（詳細）

（1）開会挨拶

大分県国際政策課 課長 荻 貴伸 氏

日頃から本県の国際交流や多文化共生の推進にご尽力に感謝する。

本県には、2022年12月末時点で15,249人の外国人居住者がいる。新型コロナウイルス感染症の影響で2020年、2021年は対年比で2年連続の減少となったが、2022年は水際対策の緩和もあり、一気に増加に転じ、過去最高となった。その中でも「特定技能」の在留資格を持つ外国人の増加が顕



著で、2019年の24人から2022年には1,058人まで増えている。また在留資格「特定技能2号」の対象分野の拡大が閣議決定されたことから、今後、特定技能や家族滞在の外国人がさらに増えていくことが予想される。あわせて、県内在住の外国人にとって、日本語学習の場としてだけでなく第3の居場所として、地域日本語教室は今後ますます重要となってくるとされる。このような背景を踏まえ、講師に立命館アジア太平洋大学の本田明子教授を迎え、本日から3回シリーズで開催する本研修では、日本語教室や日本語ボランティアの役割、日本語の教え方の基礎を学んでいただきたい。

県としても、お互いを理解し、認め合う多文化共生を一層推進していくこととしている。皆様には研修修了後は、双方のコミュニケーションに不可欠な日本語教育のボランティアとして、外国人支援、外国人に選ばれる地域づくりに積極的に参画していただくことをお願い申し上げます。

(2) 1日目講義内容

午前「多文化社会の現状と日本語ボランティアの役割、日本語教育とは何か」

- ・ボランティアの地域日本語教室が必要なわけ
- ・日本語を教えるってどんなこと？

午後「外国語としての日本語」

- ・日本語を勉強する人の立場で見てみようー日本語の音声、文字、文法の特徴
- ・日本語の音で教えてみよう



1日目 講義①



1日目 講義②



1日目 講義③



1日目 講義④

(3) 2日目講義内容

午前「外国語としての日本語を教えるための基礎知識」

- ・ JLPT（日本語能力試験）、N3 レベルとは
- ・ 直接法と間接法
- ・ いろいろなシラバス－教科書とシラバス
- ・ 文型（構造シラバス）の教え方－授業の流れ

午後「初級日本語の教えかた① 名詞文・動詞文」

- ・ 名詞文・自己紹介、動詞文
- ・ 教案の作成：学習目標の作り方
- ・ グループワーク 例文やアクティビティを作ってみよう



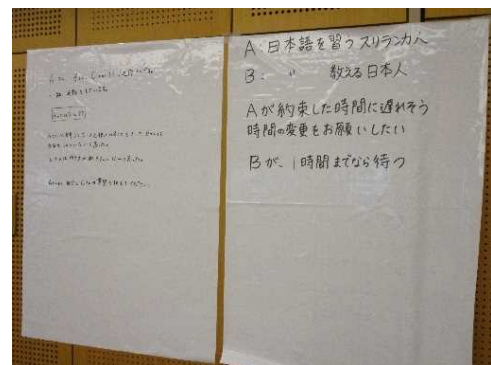
2日目 講義①



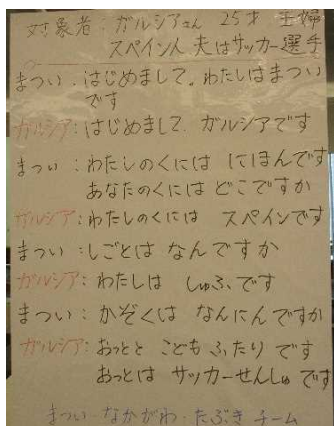
2日目 グループワーク①



2日目 グループワーク②



2日目 発表シート①



2日目 発表シート②



2日目 発表シート③

<2日目グループワーク内容 名詞文・動詞文の例文>

まず名詞文のみを用いて、例文作成をグループで行った。日本人と外国人学習者の二人の会話を想定して、日常会話で使いそうな会話を選んで作成しているグループが多かった。名詞文しか知らない外国人にどう理解してもらえるか、グループ内でディスカッションしながら進めていた。その後、動詞文「て型（「話して」「来て」のように「～て/で」で終わるもの）」を学習し、名詞文・動詞文の文型を会話で使う練習として、ロールプレイのロールカードを作成した。参加者は壁に掲示したグループの発表シートを見学し、各グループの個性が出た会話文に大きな関心を示していた。

(4) 3日目講義内容

午前「初級日本語の教え方② 文型ベース以外のアプローチ」

- ・生活者の日本語
- ・生活 Cando の紹介

午後「地域日本語教室を始めてみよう」

- ・使ってみよう！日本語教育コンテンツ共有システム『できる？できた！！くらしのにほんご』
- ・「やさしい日本語」で話してみよう
- ・地域日本語教室をはじめてみましょう コミュニティデザインという考え方



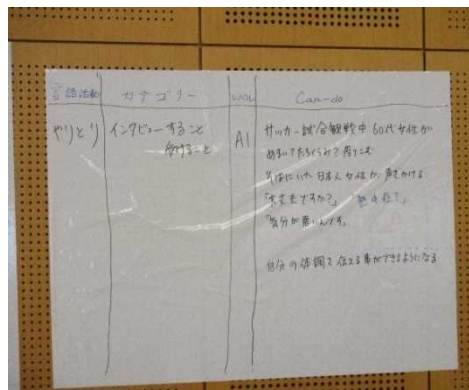
3日目 講義①



3日目 グループワーク①



3日目 発表シート①



3日目 発表シート②



3日目 グループワーク②



3日目 グループワーク③

<3日目グループワーク内容① 生活 Cando を作ってみよう>

生活 Cando 一覧表の「言語活動/カテゴリ/レベル/Cando」を参照しながら、身近にいる（または身近にいと想定した）日本語学習者が、「日本語でできるようになれたらいいこと」をグループで考えた。グループでは、防災無線を聞くこと、子どもが通う小学校からのお知らせを読むこと、など、日本語学習者が「健康・安全に暮らす」ための生活 Cando を作成した。グループワークの後、参加者は壁に掲示した各グループの発表シートを見て回り、生活 Cando について質問をしたり、意見交換をした。

<3日目グループワーク内容② 受講者間のネットワーキング（交流・連携促進）タイム>

ネットワーキングの前に、参加者は 1 分程度の自己紹介を行い、名前や居住地、本研修に参加した理由などを発表した。自己紹介の後、自分と同じような環境や考えを持つ参加者とグループを作り、本研修を通じて得た学びやネットワークを今後どのように活かしていきたいかを話し合った。